



審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 建設部長あいさつ

2 岩倉市廃棄物減量等推進協議会 会長あいさつ

3 議題

(1) 第5次岩倉市一般廃棄物処理計画 基本計画について（報告事項）

(2) 岩倉市一般廃棄物処理計画 推進計画（案）について（協議事項）

「第5次岩倉市一般廃棄物処理計画 基本計画」及び「岩倉市一般廃棄物処理計画 推進計画（案）」について、事務局より説明し、以下の質疑がなされた。

委員：推進計画案P10の3Rについて、リフューズというのは聞いたことないが、どういう風にとらえたらよいのか。一般的にはリデュース、リユース、リサイクルと思っていた。

事務局：リデュース、リユース、リサイクルの3Rがよく言われており普及しているが、「不必要なものは買わない」という意味のリフューズが出てきた。リフューズも必要であると考え、3Rプラスαとして普及していきたいと考えている。

委員：たくさんの項目があるため、議論が難しい。計画資料を作るにあたり、作成者が迷ったことや不安に感じた点を重点的に、この会議で議論をするとよいと思う。

また、自分としては、数字よりも感覚的に街がきれいになったとか循環型社会になったのかを聞きたい。どういったものを目指し、現時点でどの位置にいるのかが、数字だとわかりにくい。

事務局：説明については、計画全体を見ていただくため概要を説明した。

確かに、計画を作る中で迷うところはある。そこについては、P2の取組内容の評価で見直しをして、反映していく。

委員：では、「ぼかしの普及と使用促進」について、いい取り組みだから続いていたのに市民団体がなくなったため終わりということではよくない。これについては再開に向けてどんな動きをしているのか。

事務局：ぼかしの提供ができれば一番よいが、作るのはなかなか難しい。目標として、生ごみの削減が根本にあるため、ぼかし以外にもフラワーリサイクル事業があり、取り組んでいた。この数年はコロナで生ごみに関する取り組みはできなかったため、市民全体に生ごみの減量について意識付けをして広めていけないか、方法を検討している。

委員：コロナで止まった時に、いずれ再開することを見越して考えておくべきだ。まち全体で、生ごみで堆肥を作ってみるとか。今はわからないが東小

でぼかしをやっていたと思う。学校でやってみるとか何かやれば生ごみ減量につながり、いろいろな案をもとに話し合いができる。

事務局：可燃ごみ全体のうち約半分が生ごみで、水分をしっかりと切るだけで量が変わる。こういった啓発をしていきたい。出てしまった生ごみの有効活用もよいが、立地条件などで市民全体が実施するには難しいところがある。生ごみの減量について市民に意識付けの啓発をしていきたい。

P 4 の減量目標について、令和 10 年度の数値はもとの計画は 429 g だったが今回さらに下げて 425 g で目標を立てた。ごみの減量については少しずつごみの量が減ってきているということがある。そこからもう一歩進めるために、生ごみの削減の啓発が必要だと考えている。

委 員：なにか斬新なことをやるのか。

事務局：特に斬新なことをするわけではないが、食品ロスの取組を進めたいので、リフューズの話もあったが、市民や事業所に呼び掛けて食品がごみにならないようにするという方向性で考えている。

委 員：われわれ事業者としてもなにかできないか考えている。P 8 のスポごみはすでに開催決定しているのか。

事務局：令和 6 年度に実施を予定しているが、予算が伴う話のため見込みである。

委 員：P 12 のデポジット制度導入の要望は、現在どのような状況か

事務局：市長会を通して要望する機会があるため毎回出している。デポジットそのものは事業所が動くことになるため難しいところがあるかと思っているが、容器を返却できる仕組みのため、資源化に効果的であると捉え、要望していきたいと考えている。

委 員：P 16 のフードシェアリングは実施しているのか。

事務局：フードシェアリングサービスを岩倉市でも導入できないか、検討している段階である。

委 員：「廃棄されてしまう商品を消費者のニーズとマッチングさせる」というのはどういった運用になるのか。

事務局：現在検討しているのは、「タベスケ」というアプリを使う。登録された事業所がインターネット上に売れ残りそうな商品について掲載して、それを見た登録した消費者が購入できるという、仲介するようなサービス。

委 員：他市で実施していると聞いたことがある。

委 員：以前行っていたフードドライブはあまり効果がなかったのか。

事務局：フードドライブは年 1 回実施しており、今年 1 月下旬にも実施した。その内容については、次回の協議会で報告する予定である。

委 員：フードドライブに加え、フードシェアリングサービスはプラスアルファの取組ということか。

事務局：そのとおり。

委員：P6のごみ処理費の推移について、平成28年から令和4年までの間に一人当たりの処理費、t当たりの処理費が1.5倍になっている。廃棄施設を作るのであれば建設改良費が含まれば上がると思うが、愛知県内全体の施設の平均を調べて比べると、平成28年度は県全体より低いのに、令和2・3年度は市のほうが上回っていた。t当たりの処理費がこの5年で1.5倍になっているのはなぜか。

一方でごみ排出量の見込みは減ってきているのに処理費が上がっているのはどういうことか。

事務局：年度によって経費は変わるものだが、処理費そのものが上がってきていることや、処理の品目なども変わってきたということがある。

事務局：比較された県内の施設は、おそらく方式が違うため一概には言えないが、令和4年度は処理に使用する燃料費が高騰した。小牧岩倉エコルセンターでは燃料にコークスを使用しており、半期ごとに単価契約しているがかなり上がっている。もともとから3倍近くの単価になっており、昨今の処理経費の上昇は燃料費の高騰によるものと推察している。

委員：同じコークスを使用している施設は同じように費用が上がっているということか。

事務局：溶融炉によって変わるため何とも言えないが、コークスを使用していればおそらくそうだと思う。

委員：ごみの排出量の見込みを見ると、ひとり当たりの量が減っているのに総合的に上がったり下がったりしているのは人口の増減によるものか。

事務局：ご意見のとおり、人口統計をもとに計算をしているため、合計の数値が上がったり下がったりしているのは、人口の増減によるもの。

委員：名古屋のリサイクル事業者を見学に行ったとき、資源回収の際に集積場所からアルミ缶を勝手に持って行って販売されることがあり、それによってリサイクル事業者の売上が激減したという話を聞いた。どの地区でもある話かと思うが、その事業者は障がい者雇用にも取り組んでいて、抜き取りによる売上の減少によって設備投資ができなかったというのを聞くと、抜き取りを防ぐことで事業者を支援できないかと感じた。

事務局：岩倉市でも、分別収集日に出された資源に対し、収集時間終了後、回収業者が来るまでの間に怪しい車が回っている場面を目撃している。警察にも相談しながら、見つけた時にはすぐ通報という体制をとっている。現状防衛するしかないため、情報を集めて同じような事業者間で情報共有するなどがよいと思う。

事務局：市で、回収までの間にパトロールを実施するなどして対策し、怪しげな車がいれば写真を撮って警察に相談したりしている。

アルミ缶等の単価の変動によっても変わると思うので、売り払い単価が上昇した時にはパトロールを強化したりしている。

委員：市民の目も利用しながら対策できればよいと思う。

委員：推進計画のP21⑤の「排出が困難な高齢者等への対応」について、「戸別収集を実施します」とあるが今どのような状況なのか。

事務局：制度としては設けていないが、どうしてもごみの排出ができないという相談を受けることがある。その時は事情を聞き取りして、ごみの排出が難しいと判断されれば、連絡をもらい都度戸別収集を行うということをやっている。

事務局：集積場所まで持っていけない、家から出られない人にはヘルパーがついていることがほとんどのため、状況を確認して、必要があればヘルパーが出しておいたごみを回収することをすでに行っている。

委員：岩倉団地は「お助け隊」があると聞いた。

事務局：岩倉団地はコミュニティのなかで行ってもらっている。

委員：ボランティアと記載があるが、そういった活動を啓発する記載がいるのでは。以前ヘルパーをやっていたが、ごみ出しだけのヘルパーの仕事はない。地域で「お助け隊」のようなものを広めるならいいが、岩倉団地以外聞いたことないし、ヘルパーもごみ出しの曜日に来るわけでも、ごみ出しのみに来ているわけでもない。今後支援が必要な人は増えてくると思う。

委員：P32の災害時に発生するごみの件は、もし岩倉で災害が起こった時はどうなるのか。

事務局：災害廃棄物処理計画があるため、これが基本的な考え方になるが、災害の規模によってだいぶ変わる。いわゆる災害廃棄物が大量に出ることを想定し、廃棄物を置く場所や、ごみの出し方、搬出・搬入方法、人員配置などを考えている。

事務局：場所は野寄スポーツ広場が候補地となっている。南海トラフの想定は、岩倉は震度6弱から6強といわれており、全壊家屋はそれほど出ないと予想されている。

委員：ぼかしについて、ずっと作っていたがコロナで中止、いずれ再開と聞いていた。今後行わないことを当時参加していた会員に周知したほうが良いのでは。生ごみの水分を切る話も、この会議だけでなく市民への周知も必要だと思う。

委員：P2、3について、市民の方がタッチできるのは集積場所や生ごみの件。過去5年で何ができて何ができていなかったのか、もっと文字を大きくするなどわかりやすく表記してほしい。その評価の結果、どんな課題があるのかをP4以降に記載すべきだ。

#### 4 その他

次回の廃棄物減量等推進協議会について、令和6年3月19日実施を予定していることを事務局から報告。

その他質疑等なく、令和5年度第2回岩倉市廃棄物減量等推進協議会は閉会した。